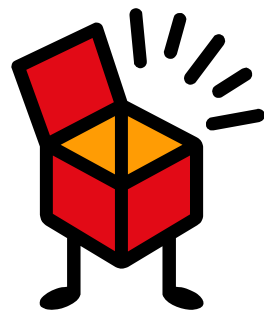


日立金属株式会社
2010年度第2四半期累計決算説明



Materials Mag!c

2010年10月27日

 日立金属株式会社
Hitachi Metals, Ltd.

<http://www.hitachi-metals.co.jp>

E-Mail : hmir@hitachi-metals.co.jp

10年度第2四半期累計(10/上)

■売上高・営業利益

売上高 2,542億円 (09/下対比 108%) 営業利益 219億円 (09/下対比 +51億円)

■需要動向

自動車関連分野 : 実需ベースで回復、北米・アジアなど海外を中心に堅調に推移

エレクトロニクス関連 : アジアを中心に堅調に推移したが、8月頃より液晶、半導体向けに調整の動きあり減速

産業インフラ分野 : 工作機械関連を中心に堅調に推移

■セグメント別動向(売上高・営業利益)

・高級金属製品セグメント : 売上高1,118億円(09/下対比 106%)、営業利益 122億円(09/下対比 +32億円)
⇒工具鋼は実需ベースで回復、液晶・半導体向けの電子材は減速

・電子・情報部品セグメント: 売上高 660億円(09/下対比 116%)、営業利益 79億円(09/下対比 +19億円)
⇒マグネットはIT家電・自動車向けともに堅調に推移、アモルファスは回復に転じ生産量増加

・高級機能部品セグメント : 売上高 769億円(09/下対比 97%)、営業利益 53億円(09/下対比 +4億円)
⇒自動車用鋳物は国内・海外ともに堅調に推移、配管機器は国内の投資抑制の影響が続き減収減益

10年度見込

・液晶、半導体関連に減速感があるものの、自動車関連は堅調に推移しており、下期売上高は上期と同規模を見込む。

・一方、利益については、上期は計画を上回ったものの、下期は短期的マイナス要因として第2四半期頃からの原材料価格高騰の影響があるため、上期に対し減益を見込む。生産性向上や価格是正など来期につながる施策を実行するとともに、グローバル市場での拡販を進めていく。

連結業績要約

(単位:億円、()内は前年同期比)

	2008年度			2009年度			2010年度				
	上期 実績	下期 実績	通期 実績	上期 実績	下期 実績	通期 実績	上期 実績	下期 予想	通期		
									従来予想	今回予想	差異
売上高	3,537	2,370	5,907	1,953	2,364	4,317	2,542 (130%)	2,558 (108%)	5,000	5,100 (118%)	+100
営業利益	297	△146	151	△35	168	133	219 (+254)	161 (△7)	330	380 (+247)	+50
経常利益	297	△195	102	△61	161	100	192 (+253)	105 (△56)	280	297 (+197)	+17
(特別損益)	0	△104	△104	△27	△16	△43	△6 (+21)	△18 (△2)	△10	△24 (+19)	△14
税前利益	297	△299	△2	△87	144	57	186 (+273)	87 (△57)	270	273 (+216)	+3
当期純利益	153	△183	△30	△57	76	19	103 (+160)	37 (△39)	140	140 (+121)	±0
設備投資額	197	241	438	86	79	165	82 (△4)	148 (+69)	230	230 (+65)	±0
減価償却費	153	165	318	149	156	305	135 (△14)	155 (△1)	290	290 (△15)	±0
研究開発費	67	64	131	50	56	106	57 (+7)	73 (+17)	130	130 (+24)	±0

2010年度第2四半期累計業績(セグメント別)

売上高 2,542億円 09/下対比 108%

高級金属製品セグメント 1,118億円 (09/下対比 106%)
 電子・情報部品セグメント 660億円 (09/下対比 116%)
 高級機能部品セグメント 769億円 (09/下対比 97%)

■高級金属製品セグメント

特殊鋼は、電子金属材料の液晶・半導体向け需要が2Q後半より調整局面に入ったものの、工具鋼需要は自動車・家電関連市場の好調に支えられ堅調に推移。ロールはアジアを中心とした海外需要が堅調に推移したものの国内建築関連の回復は弱い状況。

■電子・情報部品セグメント

マグネットは、自動車、IT・家電向けともに堅調、FA向けも急回復し増加。情報部品は太陽光発電関連の好調持続、情報通信関連部品も堅調。アモルファス(軟磁性材料)は、中国・インド向けとも旺盛な需要が継続、米国市場向けも本格化。

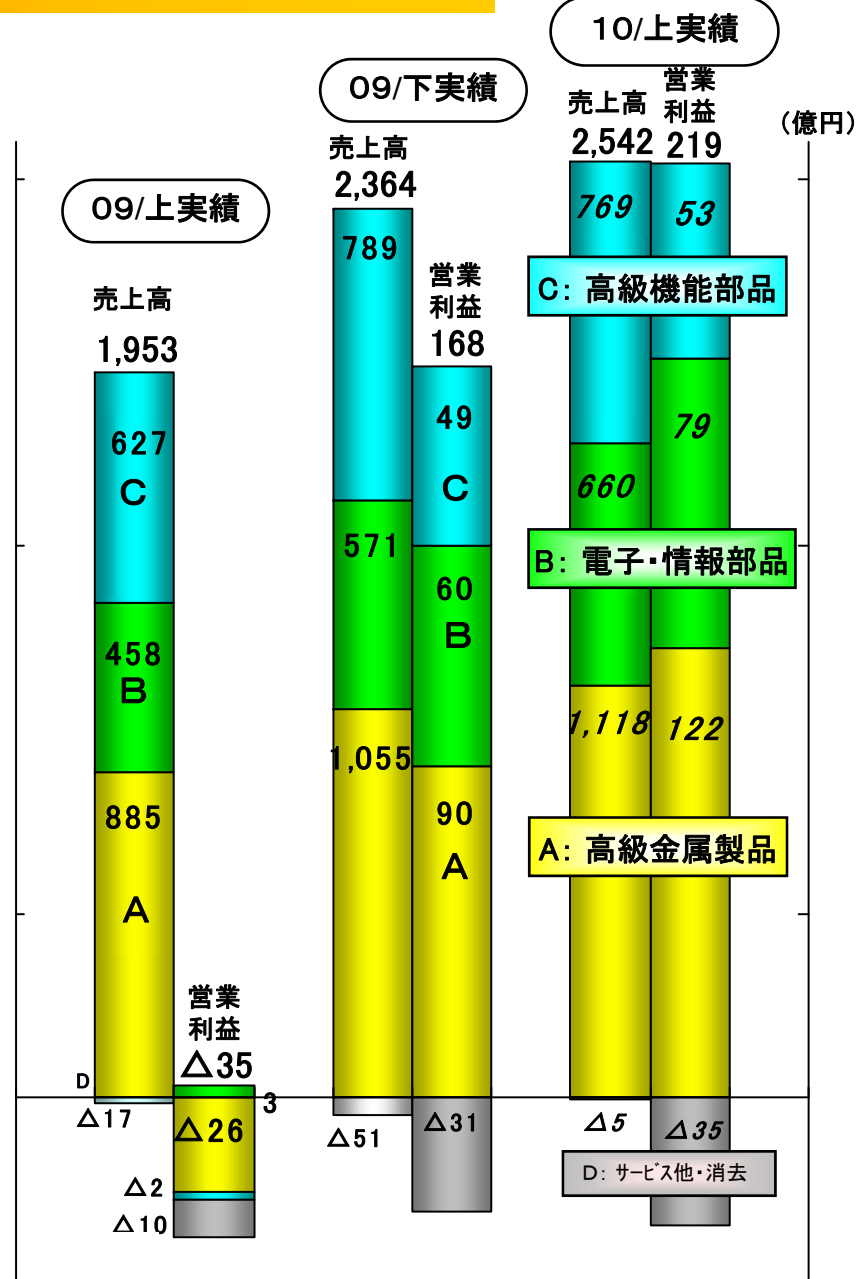
■高級機能部品セグメント

自動車用鋳物は、ダクタイル鋳鉄が米国・アジアともに好調に推移、ハーキュナイトは欧州向け需要が増加。アルミホイールは米国・アジアともに好調持続。配管機器は設備投資抑制の影響により需要低迷が継続。

営業利益 219億円 09/下対比 51億円増

高級金属製品セグメント 122億円 (09/下対比 32億円増)
 電子・情報部品セグメント 79億円 (09/下対比 19億円増)
 高級機能部品セグメント 53億円 (09/下対比 4億円増)

2Q以降、原材料価格高騰の影響があったものの、需要堅調による操業益効果で09/下に対し全セグメントで増益。
 前年同期(09/上)対比では、254億円の改善となった。



2010年度業績予想

売上高 5,100億円 (予想対比100億円増、09年度対比 118%)
営業利益 380億円 (予想対比 50億円増、09年度対比247億円増)

■高級金属製品セグメント

売上高 2,235億円 (予想対比5億円増、09年度対比115%)
 営業利益 215億円 (予想対比35億円増、09年度対比151億円増)

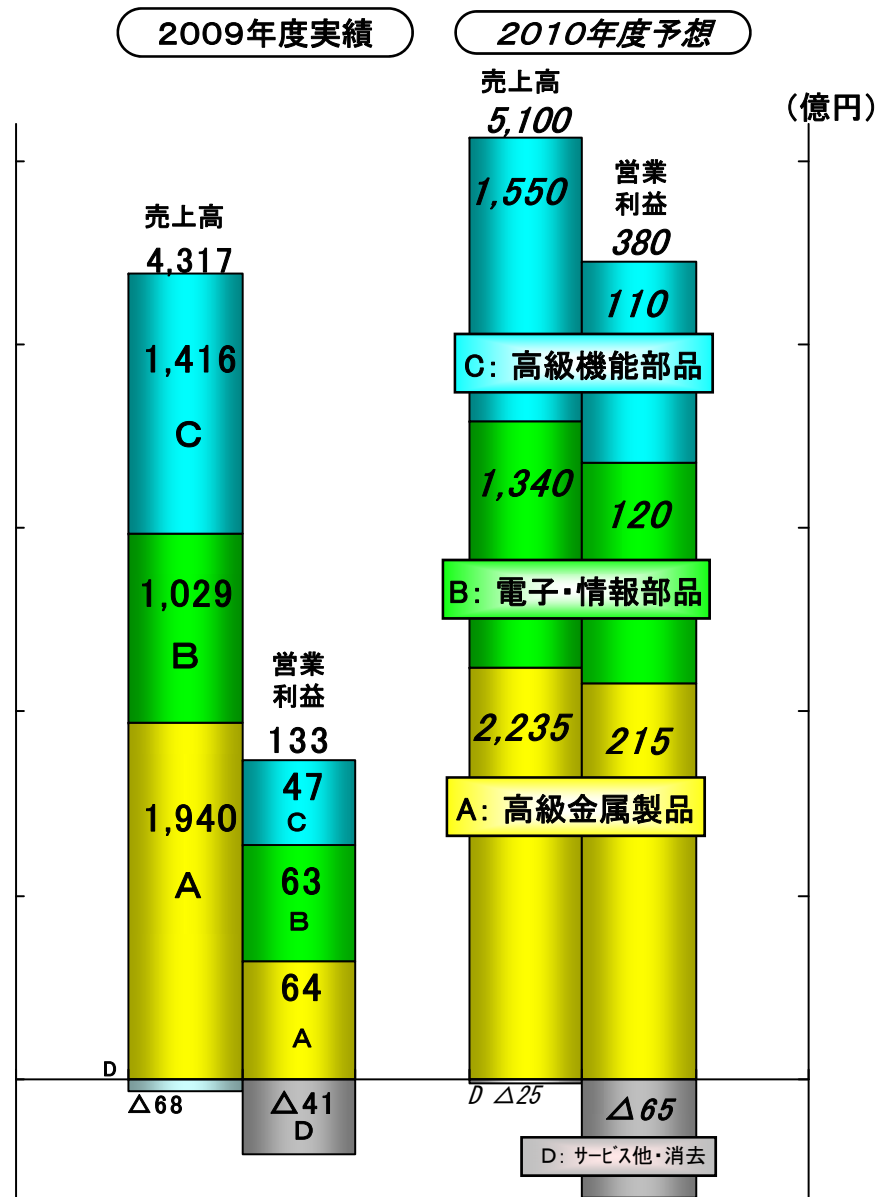
■電子・情報部品セグメント

売上高 1,340億円 (予想対比40億円増、09年度対比130%)
 営業利益 120億円 (予想対比5億円減、09年度対比57億円増)

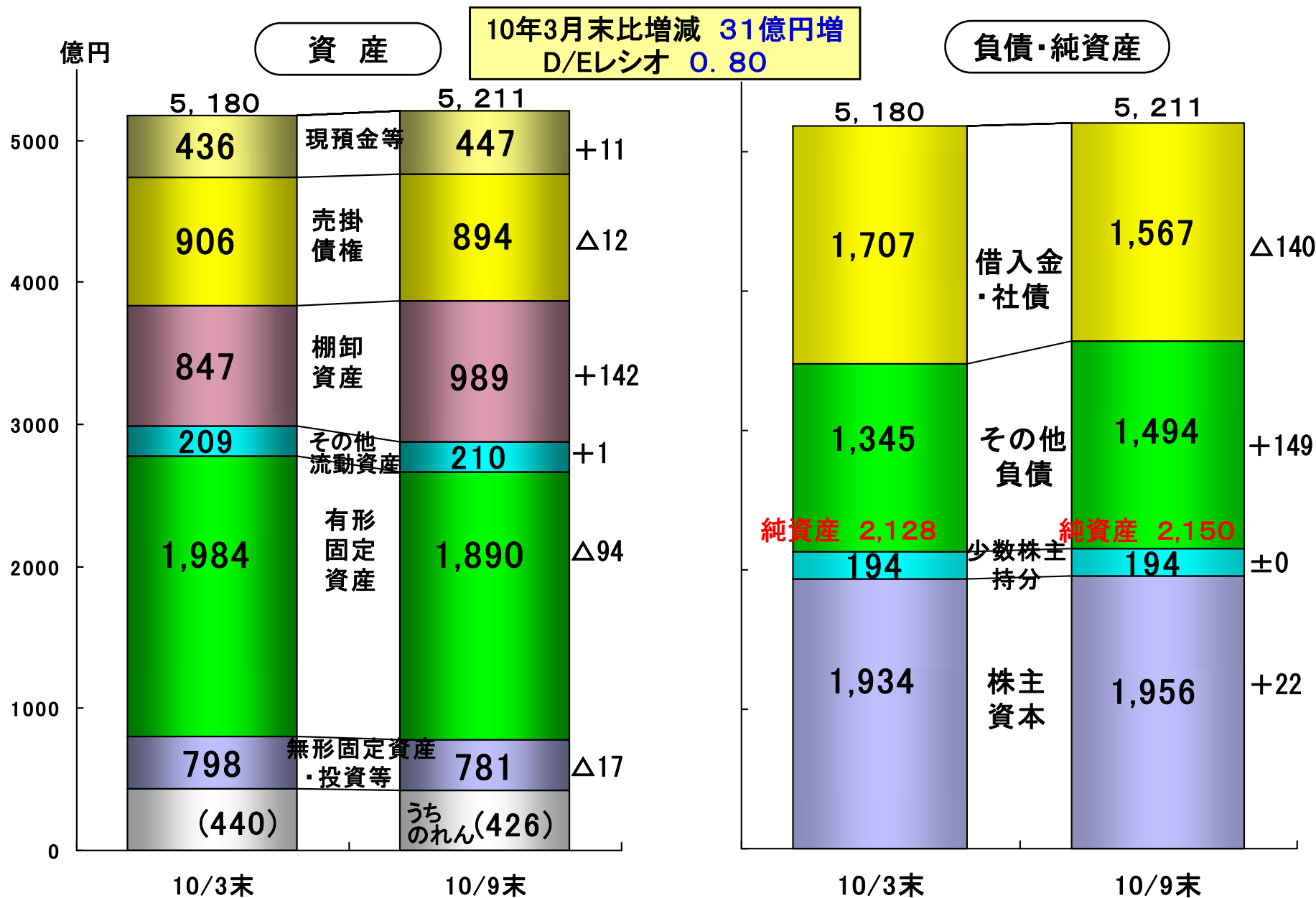
■高級機能部品セグメント

売上高 1,550億円 (予想対比70億円増、09年度対比109%)
 営業利益 110億円 (予想対比20億円増、09年度対比63億円増)

液晶関連など、一部のエレクトロニクス関連製品に調整の動きがあるものの、自動車関連を中心とした需要は堅調に推移する見込み。一方、利益面では、原材料価格高騰などの影響があるため、下期は上期に対し減益を見込む。
 生産性向上や価格是正など来期につながる施策を実行するとともに、グローバル市場での拡販を進めていく。



連結B/S残高



連結キャッシュ・フロー



(億円)

科 目	09年度 第2四半期累計	10年度 第2四半期累計
現金及び現金同等物期首残高	335	436
税金等調整前当期利益	△87	186
減価償却費	149	135
設備投資	△86	△82
その他	171	△50
フリーキャッシュ・フロー	147	189
借入金・社債の増減	△44	△119
配当金支払他	△36	△33
ネットキャッシュ・フロー	67	37
為替換算差額他	△10	△26
現金及び現金同等物期末残高	392	447

(注) 設備投資は検収ベース



本資料に掲載されている情報のうち業績予想、事業計画および配当予想等の歴史的事実以外のものは、各資料の作成時点において、予想を行うために合理的であると判断した一定の前提および仮定に基づいており、内在する仮定および状況の変化等により、実際の業績と異なる可能性があります。その要因となるもの主なものは次のとおりです。

- ・主要市場(特に日本、米国、アジア、欧州)における経済状況および各種規制
- ・急激な技術変化
- ・競争優位性および新技術・新製品の開発・事業化を実現する当社および子会社の能力
- ・製品市場、製品市況の変動
- ・為替相場の変動
- ・国際商品市況の変動
- ・資金調達環境
- ・製品需給、製品市況、為替相場および国際商品市況等の変動に対応する当社および子会社の能力
- ・自社特許の保護および他社特許の利用の確保
- ・製品開発等における他社との提携関係
- ・日本の株式相場の変動